

寺族会報

第 37 号

発 行 令和4年12月

発行者 曹洞宗宮城県宗務所寺族会

仙台市泉区市名坂字檜町169-4

曹洞宗宮城県宗務所内

電 話 022-218-3801



色からの
メッセージ



3色の中で『今』いちばん気になる色を
ひとつ選んでください。

この3色は、「心理的三原色」といわれ
ます。あなたの「本質・純粋な軸・超個人
的な質」です。2ページ下欄をご覧下さい。

コロナ禍と共に

曹洞宗宮城県宗務所寺族会

会長 岸 恵代子



与されました寺族様には誠に
おめでとうございました。総
会資料での披露になりました
こと、この状況下ですのでご
了承願います。

予定通り寺族総会、学習会
を開催出来るか、参加人数・
会場準備等、日程ぎりぎりま
で悩みながらの一年で、これ
ほど長く影響を受けるとは思
いませんでした。

令和四年度寺族総会は、教
区代表者として理事一名の出
席をお願いし、宗務所所長様
はじめ宗務所皆様にご協力的
いただき宗務所を会場に開催致
しました。

寺族物故者の方々には謹ん
でご冥福をお祈り申し上げます。
また永年功労者表彰を授

今年二月の学習会では、初
めてリモート配信を行いました。
業者の方が裏方におりま
して、画面の切換、資料の配
信等を行って頂きました。会
場からはパソコンやスマホ画
面越しに視聴されている会員
の方の顔は見えず、声も入ら
ない状態での配信です。自宅
で気軽に視聴出来ますこと
はとても進歩的ですが、事業
費は嵩みます。会員皆様には
ズームをダウンロードして頂
き、大勢の方に参加頂けるよ
うな、今年度第二回学習会が
開催出来ればと思います。
九月七日より一泊二日で東
北管区寺族会研修会が青森を

会場に開催されました。隔年
の開催ですが、宮城県宗務所
からは十八名出席頂きました。
別ページにて報告させて
頂きます。

さて、前回平成二十七年に
発行されました寺族名簿の改
訂版を、会員・理事の方々の
ご協力のもと、作成いたしま
した。会員お一人おひとりに
確認いたしました。間違い
の無いよう作業して参りました。
どうぞお手にとり、寺族
規程の変更等にも目を通して
頂きご活用下さい。

私達も来年任期が終わりま
す。事務局一丸となり最後ま
で務めさせて頂きます。

会員皆様のご理解とご協力
よろしくお願い申し上げます。
合掌



○レッドを選んだ方

とても情熱的でエネル
ギッシュ。
寝食忘れるほど没頭する
パワーがあります。リー
ダーシップを発揮した方
が貴女らしさを発揮でき
ます。

○イエローを選んだ方

とても明るく知的で好奇
心旺盛な方です。
アイデアマンですが、考
えすぎてしまします。
「あなたらしく」を大切に
してみてください。

○ブルーを選んだ方

心が広く平和をととても大
切にする穏やかなパワ
ーがあります。

受容的な性質で、それが
我慢となり、いつも自由
に憧れています。
愛情深い方ですから、思
いやりのある表現が出来
るはずですよ。

東北管区寺族会研修会

講師 田村静香氏の

資料より抜粋

挨拶

曹洞宗宮城県宗務所長

伊 藤 守 弘



宮城県宗務所寺族会の皆様方におかれましては、常々厚くご協力をいただいておりますこと衷心より感謝申し上げます。

令和四年十二月に前宗務所長三田村道雄老師の任期満了に伴い、県内御寺院様方のご推薦を賜り、本職を拝命致しましたが、甚だ浅学非才の身であり、その任の重さを強く感じていところであります。何卒よろしくお願い申し上げます。

ます。

さて、令和四年四月に御就任された曹洞宗管長大本山總持寺貫首石附周行禪師様は、御就任のお言葉の中に「一仏兩祖のみ教えに生きる私たちはどのような生き方を目指せば良いのでしょうか お釈迦様は智慧と慈悲をもって生きることを示されました 智慧とは万物に生かされている生命の真理に気づく力です 慈悲とは限りない慈しみの心をもつて人びとの苦しみを除き安楽に導くことです」と示されました。

また、曹洞宗宮城県宗務所管内寺族会の会則には、「会員の資質向上及び会員相互の

親睦を図り、並びに寺院後継者の育成、檀信徒の教化に努め、以って寺門の興隆と宗門の発展に寄与することを目的とする。」とあります。

現在私たちは厳しい無常の現実の中で、不安な生活の日常が続いております。世界的なコロナウィルスの流行・国際紛争・貧困・差別・いじめ・自然災害 更には、後継者問題や過疎化問題等々枚挙にいとまがありません。また、東日本大震災の復旧も完全ではない近年、度々発生する自然災害により大きく被災され、現在も仮設住宅等で不自由な生活をする方々も多数おられると存じます。一刻も早い日常が戻ることを祈念してやみません。

このような中、ご住職を支え常々お寺をお守り下さるご寺族様は、嫁であり、妻であり、母でもあります。またお檀家様方に向かっては良き相

談相手にもなり、宗務所・教区寺族会に在っては、お互いを高め合い支え合う良き仲間同士でもあります。どの場面にも在りまして、まさに禪師様がお示しくださっている智慧と慈悲のお心こそが、それぞれのお立場や考え方の違いを認め合い、共に助け合い、支え合い、正しい信仰の中でご住職様と共に、地域の信仰の場をお守り下さっている皆様方の基本の姿であると信じます。

今後社会状況が厳しくなることにより、ご寺族様方の役割も益々大きくなるものと存じます。本会の目的達成の為に、管長禪師様のお言葉を拠り所として各研修会等の場を大いに利用いただき、梅花や婦人会の活動をも含めて、宮城県宗務所へのお力添えをお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

合 掌

令和三年度第二回学習会

「コロナ禍におけるお寺での情報発信」
講師 阿部和美氏（フリーカメラマン）

令和四年二月十日
宗務所において

これから情報発信

第二教区 輪王寺寺族 日置 智恵



今回の研修会はコロナ禍の中での初めての試みとなりオンラインでの開催となりました。この二年間におけるコロナ禍では寺院と社会の結びつきの在り方について考える良い時間となり、今回の研修は寺族以外の方からの視点を知る良い機会となりました。

様々な様式で社会との結びつきを選択できる中で、あらゆる世代の「次世代の喪主」にな

られる方々には色々な不安があり、これらを作りだしているのは寺からの積極的な情報発信が不足しているからだということがわかりました。

また、私たちはこれらを改善するために、よりアクセスしやすい形での情報提供を行う必要があります、それぞれ檀家の方々の世代に合わせた複数の方法で情報を発信することが重要であると思います。輪王寺では季節ごとに発行する「小僧だより」に始まりホームページの運用、インスタグラムの利用などを行っています。



講師 阿部 和美氏

しかし、檀務の執り行い方などに関する具体的な情報提供を行っていないだったので、檀家の方々がどのようなことを不安に思われているのか調べた上で、それぞれのメディアを用いて発信していこうと思いました。あらゆる分野で大きな変化が起きている昨今において、私たち寺族はソーシャ

ルネットワークサービスの利用を工夫する事によって、時代に合わせて変化した社会とのつながりを見いだせると思うのです。今後とも継続して寺院と社会との結び付きの在り方を模索していく所存にございます。

合掌



コロナ禍でのお檀家さんとの関わり方

第十八教区 柳徳寺寺族 荘 司 史 子



情報発信」をテーマにご講義いただきました。

今回の学習会は、初のリモートでの講義でした。受付時間前から自宅のパソコンの前に座り、ちゃんと接続できるかな？音声は入るかな？などといった、いつもとは違った緊張感の中で始まりました。

講師にフリーカメラマンの阿部和美先生をお迎えし「コロナ禍におけるお寺での

昨今、お寺離れが進んでいると言われている中、コロナの影響で更にお檀家さんとの関わりが少なくなりつつあります。柳徳寺でも、坐禅会や御詠歌の練習、三仏忌のおつとめ等、お檀家さんを集めて一緒に行うことは出来ずにいます。

今までは、寺報を年二回発行していましたが、コロナ禍でお檀家さんとコミュニケーションを取る為

には、もっと頻繁に情報を発信していかなければならないと感じております。寺

報やSNSを活用した情報の発信はコロナ禍でも安心してお檀家さんとの繋がりを持つことのできるツールです。このようなご時世ですが、これらを使い情報を頻繁に発信していけば、むしろお檀家さんとの距離を縮める良いチャンスになると思います。

これから初めて寺報を作られる方は、まず最初にA4の紙一枚に境内に咲く花などの写真を載せてみてください。この

ような簡単なことから始めてみるのが大切だとおっしゃっていました。

現在柳徳寺では、ホームページを更に見やすくする為に更新作業中です。ホームページを楽しみにして下さっている方々の為にもより良いものを発信していけたらと思っています。また、今回のような講義形式の学習会はリモートでも十分に学ぶことが出来ました。そうは言っても、また皆さんと一堂に会し、楽しくおしゃべりしながらの学習会が待ち遠しいです。

宮城県宗務所寺族会総会・研修会

(令和四年五月十日) — 宗務所研修場 —

寺族会総会に参加して

第七教区 玉昌寺寺族 千葉 智子



コロナ感染防止の対応が万全であり、計画・準備された宗務所・事務局の方々の御尽力に感謝申し上げます。

コロナ禍三年目、寺族会総会も二年間書面決議でしたが、今回、令和四年度宗務所寺族会総会が、五月十日に宗務所研修場にて開催されました。各教区一名の参加とし、密を避け、換気を心がけ、総会の様子は、オンラインで配信されるなど、

第一部集会では、久々の「本尊上供」現在梅花をはじめ、すべての行事が中止となっている中、皆様と共に唱える般若心経は、心地の良いものでした。また、今回二十名という大勢の寺族様が、寺族表彰を受けられました。本当におめでと

うございます。住職の陰となり、寺院運営・檀信徒教化・後継者育成など並々ならぬ努力を重ねてきた事と思います。私も縁あって寺に嫁ぎ、四十三年が過ぎ、寺族として自分はどうだったか、思い返しているところです。楽しかった事、頑張ってきた事、苦労した事、すべてが自分自身の財産です。仏の教えに深く触れてこられた事を、幸いに思います。

第二部総会は、滞りなく、スムーズに進み提出議題が承認されました。

今の時代は、知りたい事をスマートフォンに話しかければ、すぐに教えてもらえる便利な世の中になりま

した。しかし、時代が変わっても、人に教えてもらい、助けてもらいながら、互いに協力し合い、人との関わりを大事にし、時代に適応していきたいものです。

今後、コロナが落ち着き、マスクなしの生活が送れるようになることを願っています。

合掌



令和四年度 総会について

第九教区 桂雲寺寺族 花山 弘子



去る五月十日、宗務所にて

寺族は本部役員各教区理事のみの出席のもと、寺族総会が開催されました。コロナ禍で、本来の形式にのっとり行えず、どの様にすべきか回を重ねて議論された結果です。会員の皆様には、オンラインで配信し参加して頂きました。

総会当日は、研修も当然オンラインで行われたのですが、菅原先生がまさに仙台の

宗務所に、その場におられるかのように感じられ、質問等の受け答えがスムーズに出来た事はとても良かったと思います。

総会の反省会が六月二十一日に行われましたが、その時に出された内容をお知らせいたします。

実際にオンラインで参加された方は十八名でした。

・リモートは前向きで良かった。一回目だから何かと大変な所もあったけど、段々と慣れてくるのではないでしょう。

・総会自体は良かった。

・今後の為に、寺でスマホを持ち寄って研修してみてもいいんじゃないか。

・こういう方法だと途中で来客や電話等があり、落ち着いて見られなかった。

・顔が映らない様に設定すればどうでしょう。

・手元に資料がないので、どこを説明しているのかわからなかった。

・年をとっているから無理等の意見や要望が寄せられ、今後の課題になるものと思われ。

いずれにせよ、今まで普通に出来た行事や人々との集いが簡単にできなくなってしまう



い、さまざまな規制がしかれる中での取り組みはさぞかし大変かとお察し致します。

改めて宗務所長様はじめ教化主事様、寺族会会長さん、本部役員の皆さんにこの書面をお借りし、心から感謝申し上げます。

合掌

研 修 会 (人権学習)

令和4年5月10日

曹洞宗における信心に関する諸問題

講師 愛知学院大学准教授

菅 原 研 州 先生



信心のあり方について学んだこと

第十二教区 浄音寺寺族 加藤 伸子



令和四年度の総会研修会では、菅原研州先生に愛知県からオンラインで講話をしていただきましたが、スクリーンに大きく映し出されて身近でお話を聞いているように感じました。

内容は「宗門の宗侶、寺族における信心問題」「他の宗教や宗旨との関わり方」「宗制における教化法」の三点に分けられ、五つの事例を挙げて話されました。

某宗派寺族様が旧統一教会に入信し、続いて夫である副住職様が信仰を持つようになった例・某宗派寺院が単立化し、他宗への譲渡危機に陥っている

る例・曹洞宗僧侶における旧統一教会入信の例・曹洞宗僧侶における、仏教系文筆家であり心学研究家に傾倒する例・他協会へ傾倒し講話依頼している例等でした。少しは耳にしたものもありましたが、殆ど初めて聞くことばかりで、お寺に住みながら他宗に心酔するという現状に大変驚きました。

このような事が起こるのは新宗教の布教の活発化と、勧誘される側に自宗の教えに対する理解が確立されていないという事でした。

新宗教の教えが「わかりやすいもの」であるという事と、インターネットやSNSを利用したり、宗教を打ち出さな入りの状況を作っている事を知りました。

私自身、曹洞宗の教えを理解しているかという点では自

信も無く、日常生活で「無財の七施」を実践しようという心がけたり、お寺内外の環境を整え、来訪者が気持ちよく過ごしていただければどの程度しか考えていない気がします。

菅原先生は「今日の講義は一人一人が『曹洞宗』に所属している意識を強く持つていただくこと、その際『信心』のあり方についても認識して頂く機会になつてもらえれば」と話されました。

今回の研修会はまさに、寺族としてのお檀家さんに対する自分の役割は何か、ということ振り返ってみる大変良い機会となりました。

もっと宗門の教えを学ばなくてはならない事。そして、お寺がお檀家さんにとって心やすらぐ場所になれるよう、少しずつでも努力していく事が大切であると考えました。

日々行っている一つ一つの事柄が両祖様の教えにつながっている事を意識しながら、一日一日を大切に過ごしていきたいと思います。

合掌

令和四年度寺族永年功労者表彰

寺族表彰 思い出に生きて

第二教区 大満寺寺族 西山 弘子



修証義の

一節に『光

陰は矢より

も迅みやかなり身命は露

よりも脆し』と説かれて

いますが、教えの通りい

つの間にか月日が過ぎ、

私も今年後期高齢者とな

りました。

いつの間にか寺族表彰

をいただく歳月を迎えて

いました。

表彰に際し宗務所、寺

族会関係各位の皆様に厚

く御礼申し上げます。

ありがたくも仏様のお

導きをいただいた私の人

生だったように思います。

様々な方々にお世話にな

り、ご恩を深く感じ入っ

ております。

一九七〇年、私は大阪

万博の年に愛知県から仙

台に嫁いでまいりまし

た。金婚式と一緒に迎え

られると思っておりました

矢先、令和元年十一月

二十二日（記念日「いい

夫婦の日」でした）に夫である大満寺三十一世重興寶山廣宣大和尚様がご遷化なされ、思いがけない急なお別れとなりました。

思いかえしますと、いつも頼りにしていましたが、廣宣和尚様から五十年をかけてお寺の暮らしを教えていただいたような気がします。

廣宣和尚様はその住職の地位に着いた時から大満寺再建計画と虚空蔵山境内との一体化と、それらを含めた山内の整備等の構想に夢を馳せていました。その夢を私も一緒に見たいと思っていました。

これからの私にいた

いた余命の日暮らしを大切にしながら、方丈様が描いた「寺院の美」の夢に近づけるよう私も山内外の皆様と共に励んでまいりたいと思います。

合掌



▶代理として一教区理事さん

ご褒美

第一教区 清涼寺寺族 神作 喜代乃



令和四年五月十日付に曹洞宗宮城県

宗務所褒賞規程第一条第二項により表彰していただきました。以前から寺族の集

会の折に先輩寺族様方の表彰の晴れ姿の中にある様々

な道筋を拝見、拝聴してき

ましたので、ここは一つの区切りの年齢なのだとの覚

悟はしております。先般、

第一教区寺族役員お三方が

揃って伝達に来て下さり表

彰状、記念品の額、教区寺

族会からのお祝を受け取り

ました。昨今のような混沌

とした世の中にあっても元気にこの日を迎えられたことが有難く、そして二年半ぶりにお仲間と会えて嬉しかったことが最大のご褒美となりました。

縁があつてさいたま市よ

り仙台市郊外へ来てから半世紀以上が過ぎましたが、

昭和五十三年宮城県沖地震から東日本大震災へと続く

被災、昨年今年もまた福島

県沖地震などに翻弄されて

おります。工事の連続する

生活には落ち着く間もなく、

今も大工工事の音の響きに

どこかで誰かに “苦労がま

だ足らぬ”と言われているような気がするのです。今夏には晋山結制法要が行じられ、新命住職に全てを委ねることになりますが、それでも五十年以上も維持に力を注いで来た清涼寺のために、東堂と心を合わせて、足らぬなら少しでも足しになる働きが出来るよう、日々

を粛々と過ごしていきたいと思っております。最後になりますが、寺族に関する制度が改定されてから七年になります。 “寺族”の意欲が高まり寺族会の活動がますます盛んになるようにお祈り申し上げ、寺族表彰の御礼とさせていただきます。

合掌

温かい気持ちに包まれて

第九教区 圓通院寺族 花釜祥子



宗務所寺族表彰を賜わり有難うござ

い。は、明治生まれの、礼儀正しい方でしたので、大変緊張しました。当時、お茶出しと言えば、お酒でしたので、接待も長くなり方言が飛び交うので、まるで英語

年になります。先住職夫婦

を聞いている様で会話が分かりませんでした。が、今では、私も方言を大分使っています。嫁いた頃、教区寺族さんに、声をかけて頂き教区寺院巡りや数々の研修会に誘われ、少しずつ慣れていきました。当山においては、開山堂をはじめ、客殿、庫裏、本堂、葬祭会館と、毎年職人さんが入っており、お茶出し名人になりました。東堂さんと共に、檀信徒様を大切にし、三仏忌の行事を中心として教化活動が続けてきた事が、地域になじみ寺が大切にされたと思います。いつも近くに檀家さんがおり、婦人会、夫人会？も活発で、協力的です。お寺は、

いつも花壇に花が咲き、綺麗になっており、感謝しております。寺族として感慨深かったです。これは、東北管区主催インド仏跡巡拝に参加し、八大聖地、お釈迦様が説法された霊鷲山で、星空の下、方丈様方のお経、詠讃歌をあげ供養した事です。近くにお釈迦様が

おられる一体感を感じ、感激で胸がいっぱいになりました。

困った時、迷った時、周りにいつも寺族さんがいて、温かい気持ちでうけとめてくれます。感謝しております。寺族会です。

合掌

令和四年度

曹洞宗宮城県宗務所寺族表彰者名簿

☆昭和二十二年一月一日～昭和二十二年十二月三十一日生まれの寺族
 ☆右記以前生まれの未表彰寺族 (敬称略)

教区	寺院名	氏名
1	大満寺	西山 弘子
1	清涼寺	神作 喜代乃
2	國分尼寺	小枝 佐智子
4	永禪寺	三浦 信子
4	慶雲院	清水 みね
6	東禪寺	笹木 三江
7	威徳寺	児玉 泰子
8	皆傳寺	天野 祥子
8	長昌院	山崎 恵子
9	養性寺	平地 貴美子
9	圓通院	花釜 祥子
13	多福院	三輪 美恵子
13	法山寺	北村 郁子
13	龍泉院	泉 村 いそ子
13	長谷寺	永松 眸
14	海蔵寺	鈴木 浩子
15	西光寺	小沢 洋子
16	地福寺	片山 嘉代子
16	松岩寺	小黒澤 美津枝
21	東泉寺	眞山 妙子

(曹洞宗宮城県宗務所褒賞規程第一条第二項該当者)

寺族物故者供養

色即是空―義母の旅立ち

第十三教区 溪秀院寺族 石山 容子



令和四年二月三日、風雪に耐え、細い枝先にひっそりと咲いていた山茶花が散りました。私の義母石山瑞子が満九十三歳で亡くなりました。慈愛と感謝の人生だったと思います。

義母は角田市の長泉寺さんに生まれ、兄弟の中でも特に体が弱かった事もあり、小さなお寺なら体力的に大丈夫やっつけていけるだろうという両親の判断のもと、女川町の溪秀院に二十四歳で嫁ぎました。その時の事を、背の高い男性と結婚できて嬉しかった

と、少女のようににはかんで話してくれました。買い物が不便な山の中の一軒家に嫁ぐ事もあり義母の母が、色とりどりの手縫い糸をいっぱいに入れた裁縫箱を持たせてくれたそうです。その糸を少し残して義母は亡くなりました。外出する事はまれで、庭にかがんで草取りする毎日、右手の人差し指と中指は変形して大きく曲がっていました。寺族の在り方について、小さく丸めた背中であえて下さったように思います。昭和、平成、令和の三つの時代に、途中で頼りにしていた夫、最愛の跡取りの息子を病気で失

い、涙をこぼして小さな弱々しい体を震わせて耐えていた義母。思い出のあるこの家（寺）で最後を迎え、孫息子が住職になったという吉報を持ってあの世に行き、先立つた夫や息子に報告するのだと気丈に生きました。亡くなる前夜に「私は幸せだ、みんなに優しくされて」と言いました。生まれ育ちは一生もの。立ち振るまい、言動、食事の仕方、物欲や金銭欲の無い生き方は本当に美しく、品のあ

る女性でした。私も私の子もたち一人も、ぜひ義母に伝えたい言葉があります。「私たちはおばあちゃんが大好きでした」と。

合掌



おもいで 先住寺族さんの生涯

第十七教区 普門寺寺族 高橋 恵美子



義母（高橋ハマオ）は、先々代住職徹徹様

の一人娘として生まれ、まさ

で大正十五年に生まれ、まさに戦争の真ただ中に育ちま

した。女学校卒業後、一時保育園に勤務されましたが、前住職芳禅様と結婚を機に寺族として歩まれます。

保育園勤務の経験を活かし、昭和三十年から四十年に

かけてお寺で「農繁託児所」を開設し、「ハマちゃん先生」と親しまれていました。しかし、昭和四十二年に芳禅様が急逝し、長男である現住職が資格を得て帰山するまで、まだ小学生の子どもを抱えながら、特定代務者とし懸命にお寺を守ってこられたそうです。

梅花流詠範の資格を活かし、仏教婦人会活動のなかで檀信徒皆さんからの信頼を築き、協力を得られたそうです。また、調理師資格も取得し、お寺で法事料理の提供を行い、生活の一助にしていたと聞いております。

現住職が帰山してからは、本堂や庫裡、会館、鐘楼堂等の再建を助けてこられました。また、ともに厳しい時代を歩んでこられた檀信徒の方々とともに、両大本山へ参拝できたことを大変喜んでお

りました。

六十歳頃から社協の食事ボランティアに参加し、月に一、二回、十五年以上もの間続けた。趣味では、墨絵の会に参加し仏画を中心に描き、町の展示会に出品するのを楽しみにしておりました。八十歳過ぎからは、毎夕写経をし、就寝前は大きな声で読経してから寝るなど、まさに寺族の手本のような姿を見せていただきました。

九十五歳までは変わらず元気にしておりましたが、令和四年三月三日、九十七歳にて逝去されました。昭和三十年代、前住職芳禅様とご縁の深い鮎川の陽山寺様の授戒会で、時の禅師様よりいただいた安名「芳室智鏡」との裏書きのある絡子と「おいずり」を身に着け、芳禅様のもとへ旅立たれました。

合掌

謹んで御冥福をお祈り申し上げます



令和三年四月一日～令和四年三月三十一日御逝去

(敬称略)

教区	寺院名	氏名	死亡年月日
2	大林寺	田村慶子	令和三年四月十四日
6	喜松院	村上てつ子	令和三年六月二十四日
9	廣禅寺	内藤チエ子	令和三年八月二十日
9	桃源院	奥野嘉代子	令和三年九月十九日
17	長興寺	佐藤陽子	令和三年九月二十七日
21	洞雲寺	千田たか	令和三年十一月十五日
13	溪秀院	石山瑞子	令和四年二月三日
17	普門寺	高橋ハマオ	令和四年三月三日
12	長泉院	泉敬子	令和四年三月八日

当該者寺院からのお申し出により、掲載されていない物故者の方もいらっしゃいます。

令和四年度第一回学習会

「日本とミャンマーの懸け橋」
講師 スーザ・ミョータン氏

令和四年十月六日
宗務所において

始める事の大切さ

第二十教区 祥雲寺寺族 鮎田 洋美



今年度第一回学習会は、リモートと理事のみ宗務所での対面受講の二通りの講習会となりました。ミャンマー出身で旅行会社にお勤めのスーザ・ミョータンさんに「日本とミャンマーの懸け橋」というテーマで、歴史や文化、日本との関わりなど色々な話題を織り交ぜてお話しして頂きました。

スーザさんはミャンマー最大の都市ヤンゴン出身でヤンゴン大学を卒業後、仙台の

旅行会社に就職し、以来三十数年日本で働きながら十五校もの小学校の建設に携わっていらっしやいます。来日するきっかけは、戦時中日本兵と親しく交流していたお母様や、日本大使館顧問を務めたお父様の話を聞いたり、元日本兵の慰霊巡拝などを手伝っているうちに日本に行きたい

思いが募ったそうです。添乗員としてミャンマーの各地を訪れているうちに、母国にもまだまだ教育が行き届いていない地域があると知り、小学校を建設する事を決意し、実行に移したそうです。

近年SDGsという言葉をよく耳にしますが、二十年

以上前から同様の活動を続けていらっしやいます。他にも法人を立ち上げたり、日本企業とミャンマー企業をマッチングさせたりと幅広く活動されています。活動の原点には母国や日本への愛や感謝の気持ちがあり、東奔西走されていらっしやるのだらうと感じました。

講習中にスーザさんが「今するべき事は今する事、やりたい事はやるべき」と言っておられました。何事も始める事が大事なんだ、と学ばせてもらいました。今回スーザさんにお会いして、スーザさんご自身がパワースポットのような方で、たくさんの方を助けて頂いた感じがします。

久々の対面での学習会は、とても明るい気持ちにさせてくれました。

合掌



講師 スーザ・ミョータン氏

令和四年度曹洞宗東北管区寺族会研修会

令和四年九月七日・八日
会場 青森県「ホテル青森」

南部弁で笑って&南部と津軽の三二歴史

第十二教区 海藏庵寺族 佐竹 広美



今回の研修会はコロナ禍での開催となり、当番県である青森の皆様方のご心労はいかばかりかとお察し申し上げます。

しかし、それら全てを吹き飛ばす様な講師先生による南部地方の歴史や方言に関する大変ユニークな講話を拝聴させていただきました。神道と仏教の融合とも言える「墓獅子」という古く江

戸時代から続く行事は、お墓の前で御神楽を舞うという大変珍しい習俗で、お囃子に合せて唄われる唄もお聞かせいただきました。

『獅子頭に降りた霊が権現様となり、今は亡き方々と生きている人達の想いや情を交差させ最後には再び成仏し供養が果たされる』という歌詞だそうで、先生は口ずさむ度に涙してしまいうそうです。

また、南部弁での昔話も方言ならではの軽妙な語り口で思わず引き込まれました。でも正直なところ方言

満載で半分も理解できませんでした…。

また、先生が「言語や方言を失う時、人は何を失うのか？それは故郷の誇りを失う事と同じである」とお話されたことが特に心に残りました。

思いがけず故郷の方言に触れたときなどは心が和みま

とっては故郷に思いを巡らせる良い機会となりました。

開催にあたりご尽力いただきました皆様のおかげで、今回の研修会は大変実りあるものとなりました。

時節柄、あまりお会いできずにいた寺族様方とも久しぶりに交流させていただきました心より感謝いたします。

合掌



講師 桎谷 伸夫 氏



「色」を使って心の整理

第十六教区 少林寺寺族 千葉陽子



色彩アドバイザー 田村静香

香先生に心と色の関係や色を使った心の整え方のお話を伺いました。私達は暖色や寒色で温度を感じ、同じ重さの鉄アレイでも白く塗った方が黒い色より軽いと感じたりします。このような色の感覚は私達が日常生活の中で五感を使って得た事です。色を使って自分の心の声を聞き、知り、安心して一人一人が笑顔で

暮らし、それは人にも伝わり信頼関係に繋がります。自分の心の声を聞く、わかる、安心する。安心するとリラックスし、ごきげんで笑顔で余裕を持って毎日が過ごせる。

先生は「安心」を生み出す三つのコツを教えてくださいました。「笑顔・向ける・開く」です。「向ける」は人に心も身体も…という事、「開く」は心を開く事です。「安心」を手に入れるカラーセラピーを、いただいた資料で実際に体験しました。「心理的三原色」赤・



黄・青から今、気になる色を選び資料を見て自分の心を言葉に置き替えわかりやすくします。自分を知り、自分自身に問い、答えを自分の中で見つけて安心を手に入れるというものです。お寺で布施・愛語・利行・同事といいますが、まず自分の心がよく整えられてい



講師 田村静香氏

なければならぬと思います。今回、心を整えるのに「色」を使う方法を知りました。解説を毎回見るのは無理ですが、先生の安心を得る三つのコツ「笑顔・向ける・開く」は心がけていきたいと思えます。

合掌

青森研修は晴天に恵まれ、北には北海道に繋がる海、南には八甲田山が見え、感染予防対策万全にしての遠出の研修会に意気込みさえ感じました。

東北六県より総勢一二五名の参加があり、宮城県寺族会では所長様・教化主事様はじめ会員十八名の参加を頂きました。

紙面の都合上、全て記載出来ませんが、どれも充実した研修で、文面より皆様に様子を感じて頂ければと思います。

◆「津軽と南部について事前
に勉強していたら」と反省する
ほど内容の濃い講演と、超
一流プロの津軽三味線演奏に
出会えて、研修会に参加出来
たこと有り難く思います。

◆コロナ第七波で、一抹の不
安が拭えない中、エネルギー
に満ちた心に響く三味線の演
奏に迎えられ、バラエティに
富んだ研修会でした。フォー
ラムを通して、もう少し宗報
にも目を通して勉強しようと
思いました。有り難うござい
ました。

◆今回が初参加でしたが、研
修会の内容もとても興味深く
参考になりました。特に「色
彩コミュニケーション心整理
術」では、今の自分に必要な
テーマかなと思いました。
フォーラムの内容も私達の
「今」「これから」の問題で
とても参考になりました。有り
難うございました。

◆コロナ禍において研修会を
して頂き大変お世話になりま
した。寺族フォーラムで、東
北管区長様から「お寺と檀家
さんの対応はコロナ前のように

に戻らない」というお話に
賛同いたしました。これか
らの将来は、住職・寺族で
智慧を絞り進まなければと
いう気持ちでした。

◆コロナ禍で不安がありま
したが、十分に有意義な研
修でした。出会い・触れ合
いの大切さを感じつつ、多
くのことを学び考えさせら
れました。

◆コロナ禍での大人数研修。
参加に悩んだ時期もありま
した。研修会はどれも興味
深いものでした。二日目の



津軽三味線のみごとな演奏

寺族フォーラムが途中で終
了してしまいましたが、と
ても内容の濃いものでした。

◆寺族の皆様とお会いし、お
寺・檀家さんの話など、身
近な情報交換が出来ました。
津軽三味線は心に浸みまし
た。色彩研修も色の意味等
教えて頂きました。貴重な
時間を持ってましたこと有り
難うございました。

◆今回が初参加でした。枉谷
先生の墓獅子の歌は感動致
しました。寺族フォーラム
は、身近な問題に対して色々
な意見が飛び交い大変勉強
になりました。和気あいあ
いと楽しく参加出来ました。

◆普段お話しする機会のない
寺族様と親しくさせて頂
き、それだけでも参加して
良かったと思います。研
修会の中でも寺族フォーラ
ムは、断然参考になりました。
有り難うございました。

◆今回が初参加でしたが、宗
歌斉唱した時、感激を覚え
ました。研修も興味深く特
に二日目の寺族フォーラム

は身近な問題が話され、時間が過ぎるのがあっという間でした。参加して良かったです。

◆コロナ感染を留意しながら始まった研修会。津軽三味線の演奏はとても迫力があり聞き入りました。記念講演では、方言でお話しされ、少し理解出来ない所もありましたが、親しみやすかったです。色彩と心の関係も勉強になりました。

◆県寺族会本部のお心遣い、ご配慮を頂きコロナ禍にもかかわらず快適に研修会に参加出来ました。特に田村先生の色彩術が心に残りました。お檀家様に向き合うためにも自分自身が日々ご機嫌で安定して暮らす事が大事と勉強しました。

◆初めての参加でしたが、和やかな雰囲気、郷土色豊かなおもてなしが素晴らしかったです。研修では、鮫神楽が興味深く先生の歌には涙が出ました。「墓獅子」と増えている「墓じまい」は、

天と地の差です。

◆コロナ禍で他県の方との研修会。南部弁で記念講演を頂きました。方言のハードルが高く、解らない時もありましたが、墓獅子・鮫神楽が今も行われている事に感動致しました。田村先生の色彩術が理解しやすくなり残りました。「自分を知る。安心する。信頼を運んでくる。」大事です。二日目の寺族フォーラムは、寺族の保証、年金制度について時間が無く勉強できなかったのが残念でした。県寺族会で学習をお願いします。

◆天気にも恵まれ一泊二日の研修会でしたが、コロナ禍三年分を取り戻すような充実したものでした。皆様と研修出来ましたこと感謝致します。

◆コロナ禍での開催でしたので、参加することに不安でしたが、青森県寺族会のおもてなしのお陰で有意義な時間を過ごしました。県内寺族様との親睦を深める

ことが出来、参加させて頂き有り難うございました。

◆コロナ禍の開催となり、関係者皆様には大変なご苦勞がありましたことお察し申し上げます。二日間有意義な研修でした。特に色彩コミュニケーションの講演で、色は自分を知る・分かる為の道具として活用出来ること。自分がこぎげんで過ごせる事で、周りも幸せになる。「日々こぎげん」に心して参りたいと思います。



◆コロナ禍での参加に不安がありました。久しぶりの御寺族様との一泊研修ということで、お互いの近況報告や情報交換ができ、とても有意義な二日間が過ぎました。

寺族フォーラムでは、コロナ対策についてや墓じまいの増加など寺院がかかえる諸問題を提示していただき、改めて考える機会をいただきました。



教 区 だ よ り

〔第17教区〕



三年振りの笑顔

第十七教区 能持寺寺族

佐藤 富士江

第十七教区は県北西部に位置し、東北自動車道『築館インター』、東北新幹線『くりこま高原駅』があり、交通の便が良い所です。地区を三ブロックに分け、中央（築館、志波姫）西部（二迫、花山）南部（瀬峰、清水、古川）と三十ヶ寺あります。

五月十七日、コロナ禍で心配していましたが、十四名の会員と、お忙しい中、教区長様にもご参加頂き、三年振りの総会を開催する事ができました。会場では、皆が笑顔で再会の喜びを感じ、開会まで会話を楽しんでいました。

昨年度の会員物故者への

黙祷を行い、教区長様より「これからも健康に留意し、お互いに情報を共有し、有意義な時間を過ごす場が持てて喜ばしい。」と祝辞を頂きました。議事が終わると、会員の近況報告を各々マイクを持って発表しました。私は、順番待ちから緊張し、まとまりのない話をして、恥ずかしい思いをしました。

多くの皆さんが実感していた事は、自粛生活による行動制限で体力と足腰の筋力低下です。他にも、病気をされて健康の大切さや家族の温かさを感じた方。実母を亡くされ、介護を振り返り、寄り添う事の大切さを感じた方。また、菩提寺様との関わりから、人と丁寧に接する事を再確認され

た方。お嫁さんの出産に、立ち会い出来ず不安の中、無事誕生してくれた事に感謝した方。フランスパンを焼けるまで上達した方。ピアノを習い始めた方。様々な日常を伺うことができました。

久しくお会いしていない方からの近況報告が読みあげられると、大変懐かしかったです。

寺族会の役割は改めて深いと感じました。限られた時間での開催でしたが、会長さん、役員さんに感謝の気持ちで一杯です。

お寺に戻り、お土産のお弁当を広げながら、別れの際に「またね」と言える日が早く来る事を願い、喜びをかみしめた一時でした。

合掌



令和4年度 曹洞宗宮城県宗務所寺族会総会並びに寺族宗務所集会・研修会

於：宮城県宗務所 令和4年5月10日

岸 恵代子	9 教区	三古寺
佐藤まさ子	6 教区	福應寺
加藤 伸子	12 教区	浄音寺
佐藤富士江	17 教区	能持寺
小林 美樹	21 教区	見松寺
奥野 直子	5 教区	洞昌寺
日置 智恵	2 教区	輪王寺
三峯 明美	3 教区	慈雲寺
工藤 敏子	10 教区	皎善寺
小松 豊実	15 教区	長観寺

(左記編集委員一同)

コロナ禍も三年目になると、すべて中止するのではなく、規模、やり方を変えて実施しようという動きになってきました。
不安を胸に参加した東北管区寺族会研修会の開催は、まさしくウイズコロナそのものでした。この状況下での準備、運営等、そして不安な思い。どんな大変だったことか……。感謝の気持ちいっぱいでした。ありがとうございました。今回もお忙しい中、執筆にご協力下さった皆様に心より感謝申し上げます。

編集後記

事務局だより

○第二回学習会

令和五年二月十六(木)

開催

○令和五年度寺族会総会・集会・研修会

令和五年五月開催予定

役員改選について

令和五年度は役員改選の年にあたります。会長は三ブロック(三、十一、十二、十三、十四、十五、十六教区)より選出します。当該教区内の御寺族の皆様よりしくお願い致します。

